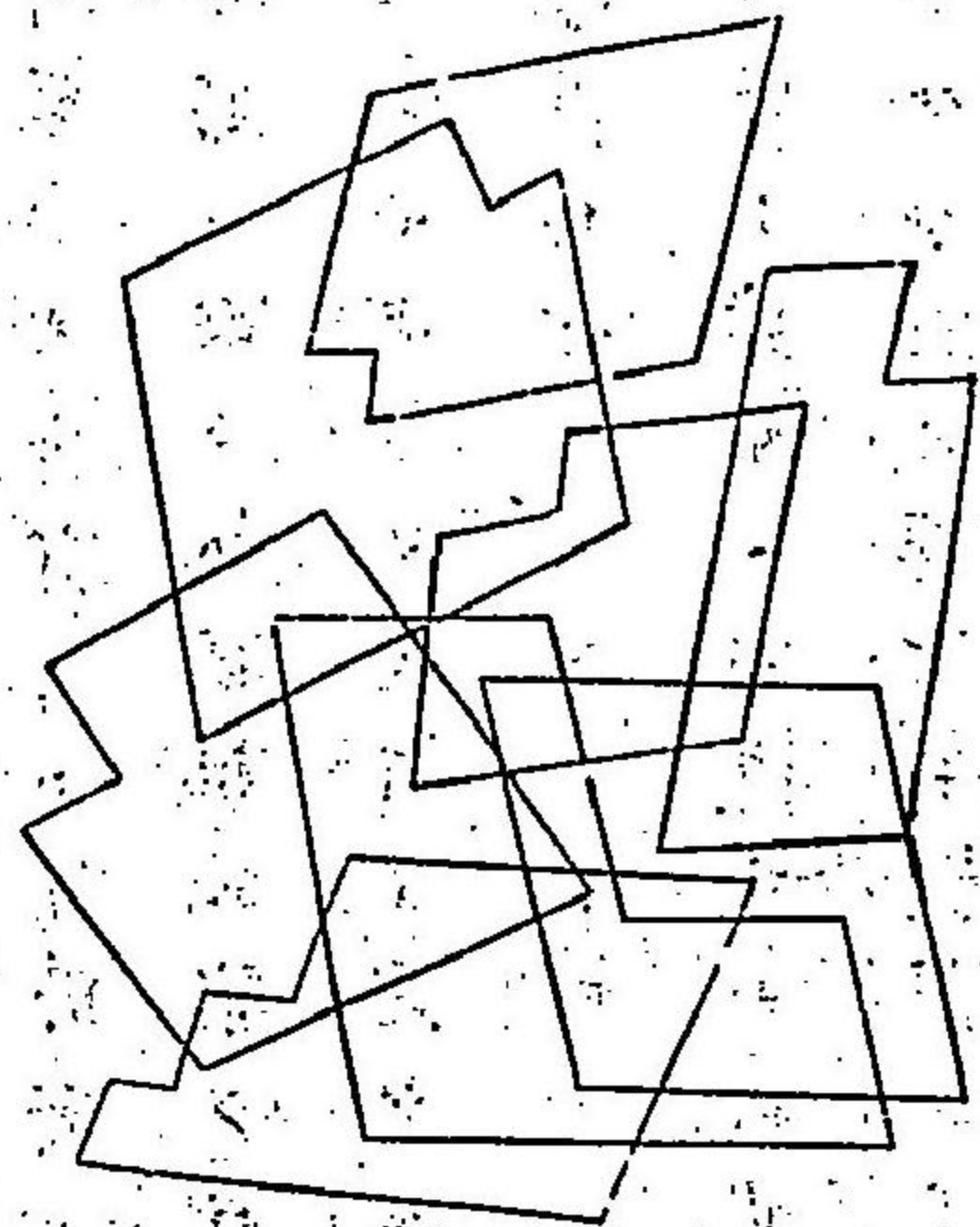


耗性ノ疾病及ヒ食餌ノ減乏ニ方リテ常ニ現ハル然レモ此
 症ハ單獨ニシテハ未ダ水腫又ハ浮腫ヲ喚起スルニ足ラ
 ザレモ血行異常ノ併發スルトキハ能ク之ヲ營ムヲ得ベ
 シ
 此血行異常中ニ就テ漿液滲泌ノ增多ハ(1)局處血壓ノ昂
 進(2)毛絡周圍ナル緊張ノ減少若クハ(3)管壁ノ變質(殊ニ
 炎性ノ爲)ニ起因ス上章ニ於テ兎耳ヲ結紮スルコト久シキ
 片ハ浮腫ヲ發生スルコトヲ論セリ斯ノ如キ場合ニ在リテ
 ハ血行障礙ノ他更ニ管壁ニ被ムル刺戟アリテ實地ニ於
 テハ或ハ純創傷性浮腫トナリテ呈ハレ或ハ蟲族ノ刺戟
 等ノ際ニ之ヲ見ル然レモ曩ニ論載シタル諸原因壓迫血
 塞(重力)ヲ具フル單純ノ靜脈鬱血モ亦以テ滲漏ヲ兀進ス

ルニ足ルモノアリ此器械性浮腫ト炎性浮腫トヲ區別ス
 レハ固形分ヲ含有スルコト后者ニ多クシテ前者ニ少シ單
 純ノ滲泌ハ滲透ノ原則ニ基クモ炎性ハ滲泌ニアリテハ
 滲出物中ニ蛋白質ヲ含ムコト往々血中ヨリモ多シ(炎症ノ章
 下ヲ參看セヨ)

水腫(水腫ト浮腫ヲ併稱ス)ノ爲メニ局部及ヒ全身ニ被ム
 ル結果ハ原因ノ輕重ト機器ノ種類トニ隨ヒテ差異アリ
 皮膚ノ水腫ハ久キヲ經ルモ損害ヲ遺サズ(1)或ハ時トシ
 却テ營養ノ旺盛ヲ致スコアリ亞刺比亞象皮病ニ於ルガ
 如シ(2)聲門、腦髓及ヒ肺臟ノ水腫ハ往々速カニ死ヲ招ク
 (3)又水腫ノ爲メ時トシ聲癢(4)ヲ起スコアリ組織柔軟ニ
 ノ抵抗微弱ナル所ニ多シ然レモ水腫消散ノ路ハ常ニ存

スルモノナリ何トナレハ滯液ハ決メ新陳代謝ノ外ニ立
 ズノ亦一種ノ循環器ヲ有シ主トシ淋巴管ニ由テ絶ヘズ
 吸収セラレレバナリ獨リ強勁ノ周壁ヲ有スル腔内ノ水
 腫ニ於テハ滯液ノ腔壁ニ加フル壓力ハ早ク己ニ脈管系
 中ノ壓力ト相平均ノ彼是強弱ガキガ故ニ滯溜較久シキ



第 四 十 二 圖

ヲ例トス是故ニ內科學ニ於テハ大抵發汗利尿下利ノ諸

膽 脂 結 晶
 分解物(膽脂結晶)
 ヲ包含セリ
 (治則)先ツ病源
 ヲ治ムルキハ吸
 収ノ機腫ヲ至ル

劑ヲ與ヘテ脈管器ノ壓迫ヲ輕減スクリユツヘン徒ハ自
 家ノ經驗ニ基キ更ニシヨロト、スタインバツヘルノ乾食
 療法ヲ以テ諸ノ循環機障害ノ緩慢治ニ就カザル場合ニ
 用ユルノ必要ナルヲ認メ之ヲ水腫療法ノ一則トナセリ
 外科學ノ範圍ニ屬スル水腫ノ吸収消散ヲ促カスニハ一
 ハ外壓ヲ昂進シ一ハ血壓ヲ輕減スルノ治法ヲ用ヒ或ハ
 手術ニ依テ滲出液ヲ排除ス
 吸収ヲ催進スル治法ニハ刺戟ヲナサハル、繃帶ヲ以テ一
 様ニ纏縛スルヲ尤モ適當トス就中護謨帶最モ優リ小絨
 帶之ニ亞グ硬膏、繃包ハ浮腫セル皮膚ヲ刺戟シテ壞疽ニ
 陷井ラシムルノ患アルガ故ニ較劣レリ俗間ニ稱用スル
 所ノ酒精又ハ芳香劑ノ塗擦、樹脂ニ浸セル棉花ノ纏蔽、發

泡膏等ハ悉ク廢棄スルニ如カズ只鉛糖水罨法ハ之ヲ施
 スモ害ナシトス創傷性浮腫ニハ狀況ニ依テハ「コッロヂウ
 ム」ヲ塗擦シテ其蔓延ヲ阻隔スルコトアリ而シテ防腐療法及
 ビ適合セル綑帶ハ最モ効アリ「外科手術ニ賴テ滲液ヲ
 排除スルハ姑息ノ救治法タルコトハ宜シク記録ノ忘ルベ
 カラス且ツ手術ノ際滲漿ノ減量ト共ニ其周壁ニ及ボシ
 タル壓迫ノ急ニ輕減スルニヨリ新ニ滲漏ノ機ヲ促シ病
 軀ヲノ更ニ多量ノ蛋白ヲ分泌セシムルノ虞アルコト亦忽
 諸ニ看過スヘカラス然レモ腹腔水腫ヲ爲シ呼吸甚シク
 障礙セラレ若クハ水腫ノ一小部ニ局限スル時ハ次ニ揭

第四十三圖



竹葉刀

クル準則ニ率ヒ
 テ之ヲ救フヲ得

(一) 放血法
 トハ竹葉刀若クハ結膜ニ用井ル如キ一種
 ノ乱刺刀ヲ以テ淺小ノ切開ヲ施スヲ謂フ又内障眼針
 ヲ用井テ數多ノ穿刺ヲ行ヒ此小手術ニ代ユルコトアリ
 或ハ血液ヲノ絶ヘズ流出セシムルヲメ皮下注射器ヲ
 適用シ、ソノ尖端ヲ刺入シ長ク之ヲ放置スルモ亦可ナ
 リ浮腫部モシ炎症ヲ萌發スベキ明徵アラバ嚴重ニ清
 潔法ヲ施スコト極メテ必要ナリ
 (二) 穿刺術
 遠ク溯テ此施術ノ沿革ヲ原ヌルニ蓋シヒ
 ポクラテス派ノ世ニ淵源ス當時ハ刀ヲ用ヒ且ツ穿孔
 ノ周縁ニ烙鉄、熱灼ヲ行ヒ癒着ノ早キニ過クルヲ豫防
 セリ、小管ヲ嵌入スルハパウエル、フレイ、エギナ Paul v. Aegi-
 na ナリ以テ嚙矢トス、バツア市ノサンクトウウス Sank-

Forus ハ 三尖針 Acus tricuspis ナ使用セリ現今稱用スル所ノシヤルリイール Charriere 形ノ套管針ハ實ニ此三

第四十四圖



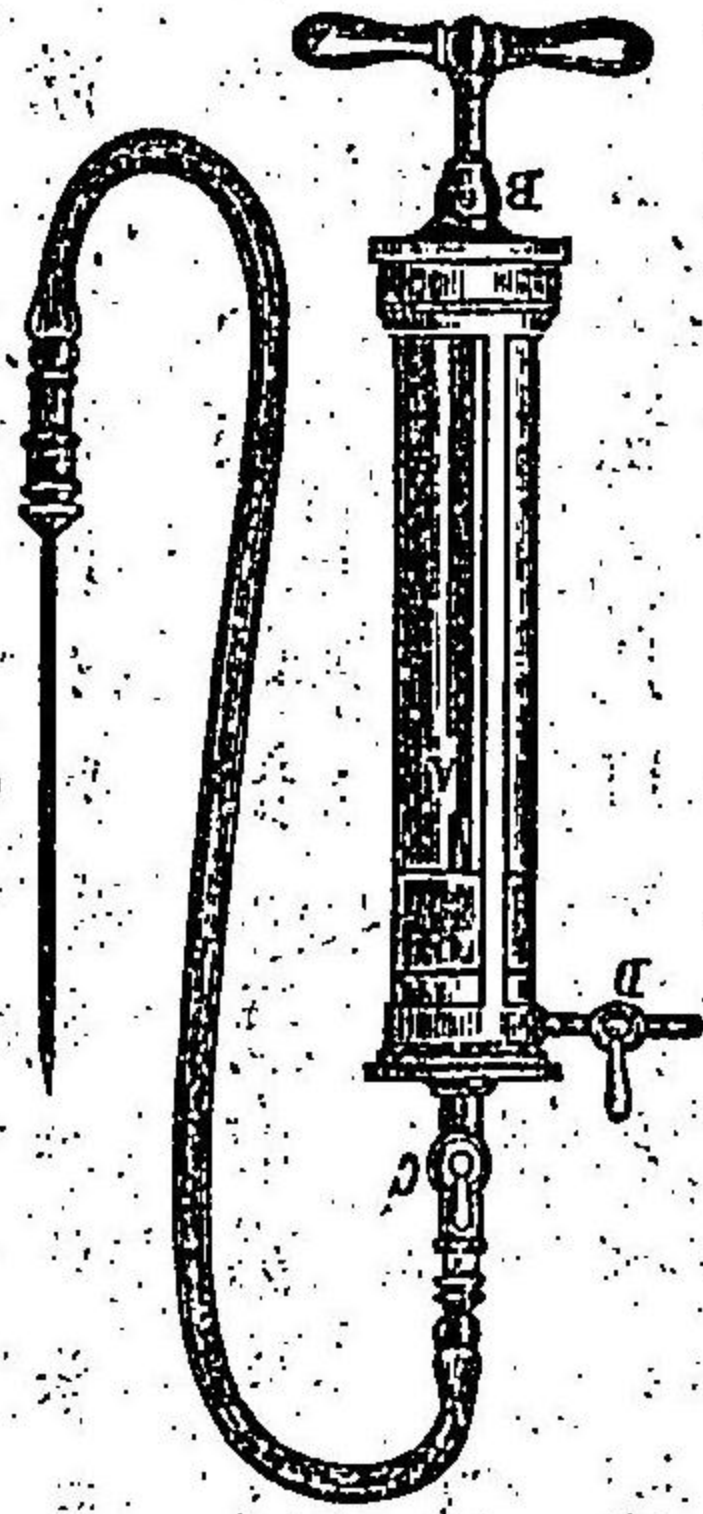
套管針

尖針ヲ改良セシモノナリ套管針ハ尖端三稜ヲ成セル小針ニシテ補綴針ヨリ鷲筆ノ太サニ至リ而シテ套管トヨク密合ス穿刺術ヲ行フニ當テハ全手ヲ以テ把柄ヲ握リ示指ヲ伸ベテ小鍼ヲ支持シ鍼ヲ拔去ルノ后内外ノ両口相正對セザラシガ爲メ左手ヲ以テ穿刺部ノ皮膚ヲ側方ニ控キ然ル後鍼ヲ皮膚ニ刺入シ示指ノ尖頭ニ至リテ止ム次ニ把柄ヲ下グ以テ深在形器ノ毀傷ヲ避ク是ニ於テ左手ヲ用ヰテ套管ヲ固定シ右手ヲ以テ

テ小鍼ヲ拔去スルキハ液体受器中ニ排泄ス若シ流出欲止スルキハ護膜製測泡子ノ類ヲ用ヰテ絮塊等ヲ除去ス又多量ニ液体ヲ攝取セシト欲セバ壓力ハ急變ヲ防クタメ少時ヲ間テ數回ニ之ヲ行ヒ若クハ排水セハト欲スル部位ヲ壓抵スベシ殊ニ腹部穿刺術ヲ行フニ方リテハ豫メ背部ニ手巾數片ヲ挿入スルハ頗ル便利ナリ腔内ノ排水訖ラハ套管ヲ拔去シ沃度仿膜「ヨッロヂウム」ヲ塗テ孔口ヲ塞クベシ拔去ノ際ニハ皮膚ヲ按壓シテ空氣ノ竄入ヲ防カザル可カラズ此空氣竄入ノ一事ハ實ニ套管鍼ノ製法ヲ更ムルノ原因トナレリ其改良ノ要点ハ舌瓣裝置ヲ加フルニアリ然レモ護膜ノ薄片ヲトリ小管ニ接着スルキハ簡易ニ

而モ大抵其効用ヲ完フスルニ足レリ蓋シ腔内ノ壓力
 排水ノ爲メニ輕減シ空氣其虛ニ乘メ侵入セントスル
 ニ方リ此護膜片ヲ流出口ニ壓抵シ自然ニ之ヲ閉塞ス
 ルナリ液体攝取ニ尤モ完全適當セルモノヲヂッラフア

圖五十四第



ヂッラフア排水器

ア一 Dieulafoy ノ裝置トナス此裝置ハ精巧ノ注射器ニ
 シテ其尖端ハ護膜管ニ依テ刺針ト連絡シ鍵子ヲ牽ク
 片ハ液体ノ吸收セラル、一猶ホ排氣鐘ニ於ケルガ如
 シ是故ニ空氣竄入ノ患ナクシテ悉ク腔内ノ滯液ヲ一

掃スルヲ得ヘシ然レモ腔竇ノ眞虛トナルハ却テ忌ム
 ベクハ空氣ヲ遮絶スルハ必シモ要ナキ、亦屢々之ヲ
 ルガ故ニ穿刺術ヲ行フ毎ニ善ク其目的ヲ反省ノ然ル
 後好適ノ器械ヲ選擇スヘシ若シ又不測ノ危険ヲ避ケ
 ンガ爲メ細心注意層ヲ逐フテ軟部ヲ斷割セント欲シ
 而モ内腔ノ壓力強大ニシテ空氣竄入ノ虞ナキハ莢
 刀ヲ以テ套管針ニ代用スルモ亦妨ナシ

15/12/37

明治廿三年四月六日印刷
明治廿三年四月十日出版

版權登錄

著者 群馬縣平民 高橋金一郎

本鄉區元町一丁目
三番地今井方

著者 福井縣士族 土肥慶藏

帝國大學寄宿舎

發行者兼插圖彫刻人 松崎留吉

淺草區北清島町七
十九番地

印刷者 櫻井幸三郎

下谷區北稻荷町五
十五番地

正價金八拾錢

發兌書林

日本橋區馬喰町二丁目

本郷春木町三丁目

日本橋通三丁目

本郷切通坂町

大坂心齋橋通

島村利助

同支店

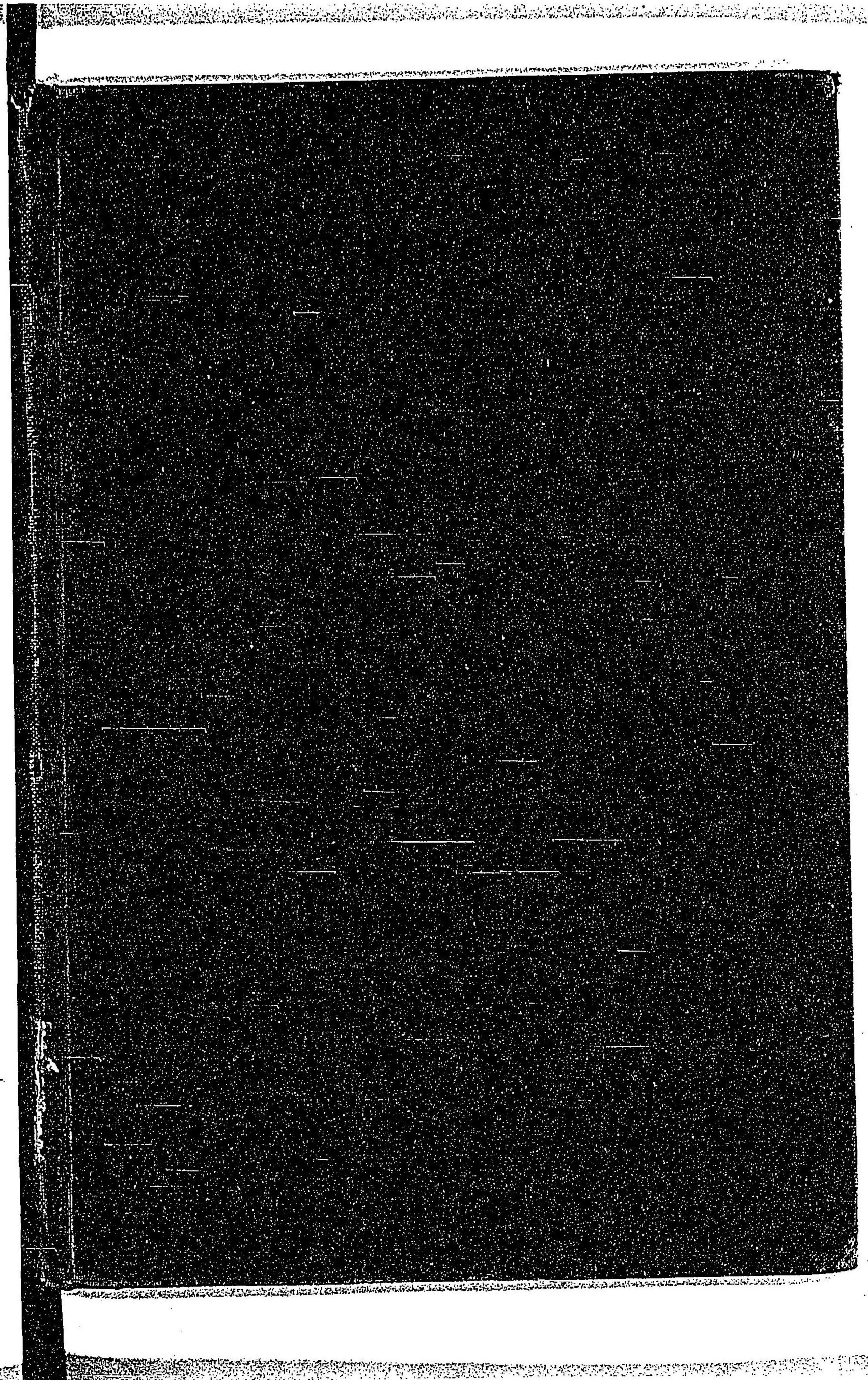
丸屋善七

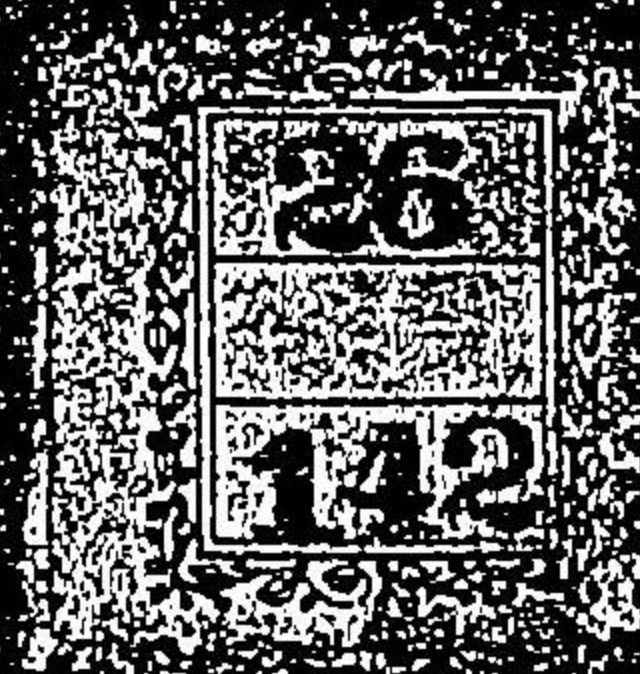
南江堂

松村九兵衛

26

142





059653-000-6

26-142

外科汎論

土肥 慶藏

高橋 金一郎 / 著

M23

CBH-0301



